

2019 年度 自己点検・自己評価報告書

A d a c h i 学園
専門学校東京デザイナー学院

2020 年 3 月 31 日作成

1・学校の教育目標

●業界で活躍できる人材の育成・輩出

『ゼロからプロになる』ための『人間力』を引き出す

●東京デザイナー学院が求める人物像（アドミッションポリシー）

感動力を持つ

果敢にチャレンジする

自分らしさを育む

2・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

●就職

本年度の実績として

- ・ 就職希望率 97.9%
- ・ 就職決定率 94.2%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 就職希望率 95.0%
- ・ 就職決定率 100%

●進級継続

本年度実績として

- ・ 1年次から2年次へ 84.0%
- ・ 1年次から卒業へ 77.7%

本年度実績を踏まえた目標

- ・ 1年次から2年次へ 87%
- ・ 1年次から卒業へ 86%

3・評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 課題

①デビュー・進学など、学生の卒業後の進路も多様化しており、そういった変化に柔軟に対応できるカリキュラムの構築が、今後は求められていくだろう

②保護者への周知はHPや郵便物等を通じて行ってるが、どこまで内容を理解しているかについては、測り切れない部分もある

② 今後の改善方策

①問題を姉妹校間で共有し、共通したカリキュラムを構築する

②在校生の保護者を対象とした保護者会の実施の検討

③ 特記事項

①カリキュラムについては、現在、姉妹校で共通したカリキュラムを構築中。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2	1

① 課題

- ①意思決定システムについては、業務デザイナー等のシステムの導入によって電子化・可視化が進んでいるが、決裁までの時間の短縮が飛躍的に進んでいるというわけではない
- ②地域社会に対するコンプライアンスには十分配慮し、適切に行っているが、一部の近隣住民から正しく理解を得られていない部分もある（学校周辺のタバコの吸い殻問題など）

② 今後の改善方策

- ①システムは電子化されても、決裁そのものは人間がするものであり、ある程度、期限に余裕を持って運用する意識を全員が持つ
- ②近隣住民など地域社会からの要望については、クレームも含め、つどつど真摯に対応していく

③ 特記事項

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

① 課題

①教職員研修については、出来るところから実施しているが、十分な予算が確保されているとは言えず、内容についても学校主導というよりも、学科主導になっている部分がある

②主に非常勤教員についてだが、長期に渡って学校と関わっていただくことによって友好的な関係を築くことができる反面、既に業界にとっては、タイムリーな人材ではなくなっている人物に授業を依頼しているという弊害もある。日進月歩の業界の状況を考慮すると、毎年毎年タイムリーな人材を確保した方が良い面もある

② 今後の改善方策

①急な増額は厳しいが、今後、教職員研修のための予算の拡充を図っていく

②教員については、今後も業界の時流に則った人材の採用を適宜行い、場合によっては大幅な非常勤教員の入れ替えも考慮する。

③ 特記事項

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・就職率の向上がはかられているか	4	3	2
・資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ①本年度は退学者が増加傾向にあり、退学率も上昇している。原因としては複合的な要素が考えられるが、緊急かつ迅速な対応を打ち出す必要がある
- ②卒業生の社会的な活躍について、学校としての情報集約が弱い。現状、卒業生からの報告という受け身での把握にとどまっている

② 今後の改善方策

- ①退学の要因をケース別（就学意欲減退、経済的困窮、家庭の事情など）に分析し、どこに問題があり、どう改善していくかを、組織的に取り組んでいく
- ②HP や SNS 等を利用した卒業生への情報発信（呼びかけ）の実施、校友会組織の活性化

③ 特記事項

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1

① 課題

①一次対応を各学科のスタッフが担うことが多いが、そのことによってオーバーワーク気味になり、結果的に時間がかかってしまい学生へのサービス低下を招いている面がある。学科スタッフが「よろず相談窓口」になることによって、逆に解決に時間がかかってしまっているケースが見受けられる

② 今後の改善方策

①どこの窓口へ行けば、より迅速に適切なサービスを受けられるか、明確化すると同時に、それを HP や校内の掲示物、冊子等を通じて、わかりやすい形で学生に伝達する努力を始める

③ 特記事項

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

①校舎の老朽化によるトラブルが頻発している。大雨等による大規模漏水や、それに起因する電気系統のショートなど、一步間違えれば、火災の発生やそれに伴う延焼等、周辺地域を巻き込んだトラブルにつながりかねないような深刻なケースも見受けられる

② 今後の改善方策

①随時対応はしているが、頻発する近年の異常気象に1対応し切れていない。今後、校舎修繕のプライオリティを上げて進める。

③ 特記事項

校舎の耐震化工事については実施済み（御茶ノ水本校舎）

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

適切に運営されており、問題なし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

(8) 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

適切に運営されており、問題なし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

定期的な内部監査も実施しており、財務情報もHP上に公開済み

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

① 課題

①個人情報の管理が、各個人任せになっており、組織として個人情報をどう扱っていくのかという規定が明文化されていない

② 今後の改善方策

①まず学校としての個人情報取り扱い規定を明文化し、全教職員に提示。そのうえで適切な個人情報の管理が行われているか、随時セルフチェックを行うと同時に、個人情報保護の観点からの教職員研修も実施する

③ 特記事項

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

適切に運営されており、問題なし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

本年度は、社会貢献をテーマとした学校全体での展示活動も実施。社会貢献・地域貢献においては、今後も注力していく

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
・学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1

① 課題

適切に運営されており、問題なし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

留学生の在籍管理、生活態度の見守りについては専門の部署を設置し、4名のスタッフを配置。今後も適切な運営が継続できるように学校として注力していく。

4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ①教育機関としての主幹をなすカリキュラムについては、A d a c h i 学園グループの姉妹校の連携により、分野別の共通のカリキュラムの構築が進んでいる。これにより、より幅広い視点・視座によるカリキュラムの策定と、授業運営が可能になり、学生への教育サービスの質の向上が進んでいくことが見込まれる
- ②学生たちが安心して教育サービスを受けることができる、教育環境・教育設備の充実は、学校としての至上命題であるが、創立 57 年を迎え、近年は校舎の老朽化による影響が深刻さを増してきた。東日本大震災の後には耐震化工事を行う等、都度の対策は講じてきたが、今世紀に入ってからの異常気象の多発や、校舎竣工当時では想定できなかった問題（教室内の空気の循環など）などについては、現状、後手後手の対応に甘んじている。今後は、環境整備・設備充実のプライオリティを上げて予算化し、学校としてあるべき教育環境を整備していく。
- ③昨年に何度も首都圏を襲った大型台風や、年が明けてからの新型コロナウイルスによる肺炎の蔓延など、これまでの経験値では対応できない想定外の事態が、頻発している。刻々と変化する事態の中で、行政と連携しながら学校として最善の対応を行っていくためにも、的確な状況判断と迅速な意思決定ができ、それらを円滑に遂行できるような学校組織・教職員組織の編成・運営が、求められている。本校においても、各々の所属部署の発想に捕らわれない柔軟な学校組織・教職員組織の運営を引き続き目指すものとする。

学校自己点検・自己評価委員会

委員長 白木 伸吾 学校長

副委員長 菅野 修

委員 竹田 卓司

委員 田中 新兵

委員 山本 裕季

委員 鈴木 正信

事務局 有賀 史彦